

ソーシャルワーカー発

在宅療養支援診療所をご存知ですか？

平成18年4月の医療保険制度改正により、これからの在宅医療の中心的役割を担う場として、「在宅療養支援診療所」が設置されました。まだ、この名前に馴染みのない方も多いのではないかと思いますので、ご紹介したいと思います。

「在宅療養支援診療所」とは

在宅で療養し、医療を必要としている方とご家族が不安なく毎日を過ごすためには、24時間体制でより細やかな医療が必要です。これまで、そのような体制が得られないため、在宅療養を希望しながらも入院や施設入所を余儀なくされる方も多くいらしたと思います。

「在宅療養支援診療所」とは、患者さんからの連絡を24時間体制で受けることができ、必要に応じて往診・訪問看護を提供できる診療所のことです。

どのような要件を満たすと
「在宅療養支援診療所」
となるのか

「在宅療養支援診療所」である施設の要件を右記に挙げます。こちらいただくと、「在宅療養支援診療所」がどのようなものか、もう少しお分かりいただけるかと思います。

- ①保険医療機関たる診療所であること。
- ②診療所において、**24時間連絡を受ける医師または看護師を設置**し、その連絡先を文章で患者・家族に提供していること。
- ③その診療所、または他の医療機関医師との連携により、患者・家族の求めに応じて、**24時間往診が可能な体制を確保**し、往診担当医の氏名、担当日等を文章で提示していること。
- ④その診療所、または他の医療機関医師との連携により、患者さん家族の求めに応じて、その診療所の医師の指示に基づき、**24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保**。訪問看護の担当看護職員の氏名、担当日等を文章で患者・家族に提供していること。
- ⑤その診療所、または連携している他の医療機関において、**緊急入院を受け入れる体制を確保**していること。
- ⑥医療サービスと介護サービスとの連携を担当する**介護支援専門員(ケアマネジャー)等と連携**していること。
- ⑦診療所における在宅看取り数を報告すること。

夏季号
ラインナップ!!

2P ソーシャルワーカー呉「在宅療養支援診療所をご存知ですか?〜(続き)
ビタミンB1摂ってますか?
タイムスタディ報告

3P テクノエイドショップ
地域連携委員会報告

4P 地域連携委員会報告
(続き)

このように、「在宅療養支援診療所」の存在は大きな安心をあたえてくれるものであると思います。しかし実際には、地域性による格差、医師の労働負担、患者の医療費負担が高いなどの問題点も聞かれています。現在都内には999ヶ所、渋谷区では24ヶ所の医療機関が「在宅療養支援診療所」として登録されています（平成19年6月14日現在 WAM NET ホームページ<<http://www.wam.go.jp/>>からの情報による）。

ご自宅の周りにある診療所が「在宅療養支援診療所」であるのかを知っておくことも一つかもしれません。ご質問等ございましたら、担当のソーシャルワーカーやケアマネジャーにお尋ねください。

ソーシャルワーカー（外来担当） 細野 麻衣子

ビタミンB1摂ってますか？

夏バテ等の原因の一つにビタミンB1の不足があると言われます。

ビタミンB1には、ご飯などの穀類や砂糖、果物などの糖質を分解する酵素の活動を助けて、エネルギーに変えていく働きがあります。また、ビタミンB1は、水に溶けやすく、熱に弱い水溶性のビタミンです。一度に多く摂取しても必要量以上は、体外に排出されます。よって、まとめて摂るのではなく、コツコツ毎日摂るのがおすすめです。ビタミンB1は豚肉やうなぎ、納豆、魚なら血合いの部分等に多く含まれます。またビタミンB1を吸収しやすくします。「アリシン」という栄養素を多く含む食材（ニラ、玉ねぎ、にんにく等）を合わせて摂ると効果的です。例えば、豚しゃぶ、レバニラ炒めなど。汗や尿により体外にビタミンB1が排出されやすい夏は、ビタミンB1が不足しやすい季節。また、暑さから麺類や冷たいジュースといった糖質を含む食品を摂る回数が増えますが、これもビタミンB1が不足する原因の一つ。このように、夏は、他の季節に比べ2～3倍の量のビタミンB1が消費されると言われています。不足すると、糖質がエネルギーに変えられず、疲労物質である乳酸になるため、疲れやすくなります。食欲の落ちる夏こそ、食事内容をしっかりと考えることが大切です。バランスの取れた食事を心がけ、楽しく元気に夏をのりきりましょう。

栄養科 小久保 里美

★★★★★★ 調査にご協力いただきありがとうございました ★★★★★★

当院では、8月2日(木)～3日(金)には5階病棟Aチームで、9日(木)～10日(金)には4階病棟Bチームで、24時間、すべての職員の業務を1分間単位で記録する調査を実施しました。これは、皆様に提供するサービスの質向上のために、全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会が進めている、回復期リハビリテーション病棟でのリハビリや看護サービス提供の実態調査の一環として行われたものです。



Tシャツに「調査員」のネームタグをつけた多くのスタッフが参加しました。

当日は、各職員に調査員（当院の職員）が付いて観察・記録を行いましたので、病棟内や訓練室内に、いつもの2倍の職員が出入りし、お騒がせいたしました。また、一部の患者様には、提供させていただいたすべてのサービスを記録し、症状や睡眠の質についてお伺いし、活動量の連続記録を行うといった調査にもご協力いただきました。

おかげさまで無事調査を終えることができました。皆様のご協力に心より感謝いたします。

院長 木下 牧子



それぞれの職員が働くたびに「調査員」となった職員も走り回りました。

テクノエイドショップ

テクノエイドショップでは食品、日用雑貨等のコンビニ商品も販売しておりますが、何と言ってもメインは福祉用具の販売です。杖、リハビリシューズ等の歩行補助用具、シャワーチェア、浴槽すべり止めマット等の入浴関連用品、その他リハビリ器具、自助具等々、常時約300種類の福祉用具を展示販売しております。又、展示品以外にもカタログ掲載商品を始め、お取寄せ可能な商品が数多くあります。その方にとって本当に必要な商品を購入していただきたいと考えておりますので、気になる商品がございましたらお気軽に販売スタッフにお尋ね下さい。

その他車いすや介護ベッド等の福祉用具のレンタルや住宅改修もお受けしていますので、併せてご利用いただければと思います。皆様のご利用を心よりお待ちしております。

テクノエイドショップー同



各種の杖



すくい易い食器

手前側が低く斜めに、奥側が深く内側に受ける形になっていてすくい易くなっています。



転ばぬ杖

両手を使いたい時にテーブルやカウンター等に倒す心配なく杖を掛けておくことができます。

地域連携推進委員会の活動内容の紹介

初台リハビリテーション病院には開設当初から地域連携推進委員会がおかれています。患者さまが当院を退院して生活を再開される場である地域のことを病院として知ることや、地域の関係機関の活動を学び、密な関係を結んでいただくための活動を任務としています。

これまでの活動の大きな柱の一つは、退院された患者さまへのフォローアップアンケートです。入院中のリハビリテーションが退院後の生活に活かしているかどうかを検証し、提供したリハビリテーションの内容を検証するためのものです。

もう一つの大きな柱は、院外訪問活動です。これは、地域にあるさまざまな関係機関を委員会メンバーが訪問させていただき、担当者の方と直接お会いし、施設や設備を見学して、face to faceのネットワークを構築させていただくこと、患者さま・ご家族にその情報を提供させていただくことを目的としています。

今回は、その中から、当院の外来患者さまに特にご紹介したい施設2ヶ所の訪問の様子をご紹介します。

地域連携推進委員会委員長 取出 涼子(SW)

(P4へ続く)

東京都障害者総合スポーツセンター

ここは、運動場、体育館、屋内プール等の施設を持つ、障害者のための総合体育施設です。スポーツなんて出来るかな？と不安に思っている方でも安心して下さい。初めて利用される方にはスタッフが個別に面接を行い、健康管理や運動適正、適正種目等について指導や助言を行ってくれます。移動や更衣は自分で出来るか、もしくは介助者がつくことが必要ですが、常時スポーツスタッフやボランティアを配置しているため1人で来ても楽しくスポーツに取り組む事が出来ます。また、体験のための入門編から、初心者、上級者向けなど、様々なイベントが年間を通して開催されています。場所は北区の十条で、池袋駅と王子駅から車椅子リフト付きの無料送迎バスが運行されています。お問い合わせの際は東京都障害者総合スポーツセンターまでご連絡ください。(TEL03-3907-5631)



運動場

トレーニングルーム

屋内温水プール

テニスコート

卓球台

東京体育館

千駄ヶ谷駅の目の前にあるこの施設には、最新の機器を配置したトレーニングルームや屋内温水プールがあります。ここには33種類、87機ものトレーニングマシンがあり、自分の体に合ったさまざまなトレーニングプログラムを組むことができます。施設スタッフに身体的な介助を依頼する事はできませんが、マシンのセッティングや運動方法についての助言は常駐するトレーナーの方が対応してくれます。屋内温水プールは50mと25mがあり、水深1mのウォーキングゾーンが常設されています。ただし、スロープがない為に入りは梯子もしくはプールサイドから行う必要があります。お問い合わせの際は指定管理のティップネスフィットセンターまでご連絡ください。(TEL03-5474-2114)



これらの施設の利用について、ご質問、ご不安がある場合は当院外来スタッフにご相談ください。

あと
がき

今回の栄養科の記事はいかがだったでしょうか？嚥下食やソフト食を実際に試食して意見を集め、よりよいものを患者さんに提供できるように心がけています。毎日の食事からビタミンB1をしっかり摂取して、体調を整えましょう。

作業療法士 小池 正敬



お知らせ



* 当院の理念に賛同頂き、伊藤忠夫様からご寄付を賜りました。